

世界選手権への道（番外編）

村越 真

昨年2001年で、日本が世界への挑戦をはじめから四半世紀が経つ。今回、世界への挑戦の番外編として、この間の歩みをまとめてみた。

結果は特別に書いていないが、世界選手権では予選通過が現在のところの日本チームの目標となっている。また参加国数や人数の増加で、一概には比較できないが、決勝では、76年の杉山の26位がいまだに日本人最高順

位である。

右写真は1981年の世界選手権で個人戦優勝したアネケン・クリングシュタ（左：スウェーデン）とオイビン・トン（ノルウェー）、オイビンは79年について二連覇であった。



大会名がなく国名のみ書いてあるのは世界選手権とその開催国。ジュニア世界選手権は書いていないが、1990年以降、毎年開催されている。

- 1976 スコットランド（杉山隆司、日本人としてはじめて出場26位）
- 1978 ノルウェー（杉山、山岸、高尾、小山が参加。日本として初めてリレーに出場）
第一回世界学生選手権開催（フィンランド：ユバスキラにて。山岸、高尾、小山、鈴木健夫、鈴木規弘、長田（現高野、出水（現村越）出場
- 1979 フィンランド（五輪の年とずらすために、世界選手権が奇数年に移動、杉山、山岸、高尾、石田出場）
- 1980 第二回世界学生選手権（スイス：山岸、田中、宇野、後閑、村越、土公、豊島参加）
- 1981 スイス（山岸、村越、石井、小山、山下出場）
- 1982 第三回世界学生選手権（ハンガリー）
- 1983 ハンガリー（女子チーム初参加。クラシックにおいて予選が導入される。村越が予選通過、決勝39位）
- 1984 第4回世界学生選手権（スウェーデン）
ワールドカップ試行大会が行われる（スウェーデン）
- 1985 オーストラリア（ヨーロッパ以外ではじめての世界選手権。女子でスウェーデンのアネケン・クリングシュタがこれまででも唯一の3連覇）
- 1986 第5回世界学生選手権
ワールドカップが初めて開催される
- 1987 フランス（85年にはおこなわれなかった予選が行われる。予選システムは定着）
- 1988 第6回世界学生選手権（ノルウェー）
- 1989 スウェーデン（スウェーデン2回目の世界選手権）
- 1990 第7回世界学生選手権（ソ連（現ラトビア）
ジュニア世界選手権、初めて開催される
- 1991 チェコスロバキア（やはり2回目の世界選手権。ショート種目の導入）
- 1992 第8回世界学生選手権（スコットランド）
- 1993 アメリカ（ヨーロッパ外、2回目の世界選手権。クラシックは予選はなく、その代わり国ごとの人数枠制に）
- 1994 第9回世界学生選手権（スイス）
- 1995 ドイツ（木植早生、女子選手として初めて、ショート種目で予選通過。クラシックはやはり人数枠制）
- 1996 第10回世界学生選手権（ハンガリー）
- 1997 ノルウェー（2回目）
- 1998 第11回世界学生選手権（ノルウェー）
- 1999 スコットランド（2回目）
- 2000 第12回世界学生選手権（フランス：伊藤恭子、学生選手権で初の予選通過）
8月、オーストリアのライプニッツで開催された国際オリエンテーリング連盟の総会で、2005年に日本が世界選手権を開催することが正式に決定される。
4月に富士で日本ではじめてのワールドカップが開催される
- 2001 フィンランド（スプリント種目がはじめて導入される）
ワールドゲームズで初めてオリエンテーリング実施（秋田）日本選手として、松澤、加賀屋、金並、塩田が出場。
- 2002 第13回世界学生選手権（ブルガリア）ジュニア世界選手権（スペイン）